

(LD・ADH高機能自閉症等を含む
障害のある子ども達への支援のための)

特別支援教育コーディネーター

養成研修マニュアル

—養成研修の企画立案者用—

は ・ じ ・ め ・ に

文部科学省に設置された特別支援教育の在り方に関する調査研究協力者会議は、平成15年3月、「今後の特別支援教育の在り方について（最終報告）」（以下「最終報告」）を公表した。この最終報告において、障害のある児童生徒の教育について「障害の程度等に応じ特別の場で指導を行う『特殊教育』から障害のある児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じて適切な教育的支援を行う『特別支援教育』への転換を図る。」と提言された。この「特別支援教育」については「従来の特殊教育の対象の障害だけでなく、LD、ADHD、高機能自閉症等を含めて障害のある児童生徒の自立や社会参加に向けて、その一人一人の教育的ニーズを把握して、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するために、適切な教育や指導を通じて必要な支援を行うものである。」とし、特別支援教育を支える仕組みとして、教育的支援を行う人や関係機関を連絡調整するキーパーソンである「特別支援教育コーディネーター」を置くことが提言された。

独立行政法人国立特殊教育総合研究所は、この提言を受け、プロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究」を開始し、国内外の文献を整理するとともに、各学校や地方公共団体への調査を行ってきた。また、各地方公共団体で、特別支援教育コーディネーターの養成研修の企画・実施にあたる者を対象に研修事業を実施した。こうした活動を通して得られた知見を整理し、特別支援教育コーディネーターの役割・機能を整理するとともに、その資質・技能と特別支援教育コーディネーター育成のための研修の在り方等について検討した。

研究成果を踏まえ、各地方公共団体で特別支援教育コーディネーター育成の研修を企画立案するための資料としてまとめたものが本書である。各地方公共団体で行っているコーディネーター研修の状況、特色ある研修事例、コーディネーター養成研修を行うための教材等を掲載している。

また、別冊として、特別支援教育コーディネーターが活動を行うために必要な知識、活動の内容や方法、配慮事項などについて、担当する教員が使いやすいガイドブックとしてまとめた「特別支援教育コーディネーター実践ガイド」を作成しているのでご活用いただければ幸いである。

本書が、特別支援教育の推進する担い手である特別支援教育コーディネーター研修とその活動の充実に寄与できることを願っている。

このマニュアル作成の経緯

各地で特別支援教育体制の推進が行われてきました。平成15年度はモデル事業の指定地域を中心とした一部の先進地域・先進校での推進でしたが、現在は各地域で活発に推進されるようになってきました。この特別支援教育体制推進の要となるのが特別支援教育コーディネーターです。各自治体では特別支援教育コーディネーターの養成に努力されています。

独立行政法人国立特殊教育総合研究所(NISE)では文部科学省とともに各自治体での特別支援体制の推進を支援してきました。特別支援教育コーディネーター養成の支援の中心となるのがプロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際研究」です。研究スタッフを中心に各自治体での養成研修を企画・立案する人を対象に平成15年4月から「特別支援教育コーディネーター指導者養成研修」を実施してきました。

当初の研修コンテンツは特別支援教育体制や特別支援教育コーディネーターの機能についての講義等が中心でしたが、特別支援教育体制が進捗するにあたって演習を中心とした研修への支援が要望されるようになりました。そこでプロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際研究」では、特別支援教育コーディネーターの重要な資質・機能として、調整機能に着目し、その育成のための研修コンテンツを作成してきました。本冊子は作成した研修コンテンツを整理し、各自治体の特別支援教育コーディネーター養成研修で活用していただくことを目的に作成しました。

なお、研修コンテンツの作成にあたっては日本ファシリテーション協会の堀公俊様、三田地真実様の多大なるご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

プロジェクト研究
「特別支援教育コーディネーターに関する実際研究」

研究副代表 大杉成喜

「特別支援教育コーディネーターマニュアル」は独立行政法人国立特殊教育総合研究所(NISE)がプロジェクト研究「特別支援教育コーディネーターに関する実際的研究」の研究成果物のひとつとして作成・配布するものです。「特別支援教育コーディネーターマニュアル」本編は各校の特別支援教育コーディネーターの使用を目的に作成しました。別冊である本冊子「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアルー養成研修の企画立案者用ー」は各都道府県・政令指定都市・中核市等の教育委員会の特別支援教育コーディネーター養成研修を企画・運営する人を対象に、その資料として作成したものです。

研修コンテンツの一部は堀公俊様、三田地真実様のご許可をいただき掲載いたしました。

図・表を含む研修コンテンツについては、教育委員会等が実施する特別支援教育コーディネーター養成研修においての利用には制限を設けませんが、その他の場での利用される場合については当研究所までご連絡下さい。

はじめに

このマニュアル作成の経緯

全国の特別支援教育コーディネーター養成研修の実施状況

- 平成16年度 1
 - 1. 特別支援教育コーディネーターの指名の通知の状況
 - 2. 特別支援教育コーディネーター養成研修に関する研修事業の実施状況
- 平成17年度進捗状況 3
 - 1. 特別支援教育コーディネーターの指名の通知の状況
 - 2. 特別支援教育コーディネーター養成研修に関する研修事業の実施状況

NISEの特別支援教育コーディネーター指導者養成研修

- 養成研修に求められるもの 11
 - 1. コーディネーター養成の必要性
 - 2. コーディネーター養成に向けた国の取組
 - 3. 養成研修の企画・運営に求められること
- NISEの研修プログラムについて 13
- 養成研修を企画するにあたって 「思い」を伝え「気づき」をもたらす研修企画デザイン 15
 - 1. “そもそも”なぜ研修を行なうのか
 - 2. 研修の準備段階で考慮すべき項目
 - 3. 意味ある研修作りを目指して ～「思い」を伝え、「気づき」をもたらす研修作り～
- 特別支援教育コーディネーターとファシリテーション 19
 - 1. なぜ、特別支援教育コーディネーターに「ファシリテーション」の手腕が求められるのか？
 - 2. ファシリテーションとは何か？
 - 3. ファシリテーターの役割
 - 4. ファシリテーションの基本の手法
 - 5. 大事なのは「参加者の思い」をキャッチすること
 - 話し合い観察チェック表

●地方自治体での研修プログラム実施例（宮城県）	26
1. 特総研の特別支援教育コーディネーター指導者養成研修から学ぶ	
2. 宮城県におけるコーディネーター養成研修プログラム	

全国の特徴のある特別支援教育コーディネーター養成研修

●地域大相談会による相談支援実習：大阪府	28
コラム：高等学校における特別支援教育推進研修	
●地域特別支援教育推進者研修：栃木県	32
●ポスター発表大会：名古屋市	

資料：NISE作成の演習問題

●ファシリテーション演習問題	36
アイスブレイクの例	
演習1：話し合いを推進するファシリテーション	
「特別支援教育コーディネーターの資質」についての価値交流学习	
演習2：問題解決を推進するファシリテーション	
「障害のある子どもの運動会のクラス対抗リレーへの参加」	
演習3：組織改革を推進するファシリテーション	
「校内委員会に向けて」	
●特別支援教育コーディネーター概論資料	56
●校内支援体制の構築 特別支援教育へ向けての学校作り	60
参考文献	65

ファシリテーションに関する監修：日本ファシリテーション協会会長 堀公俊

ファシリテーション教材の著作権について

本冊子、特別支援教育コーディネーターマニュアル別冊「特別支援教育コーディネーター養成研修マニュアルー養成研修の企画立案者用ー」のファシリテーションに関する記述については日本ファシリテーション協会の堀公俊会長の監修を受けています。

特別支援教育に関する研修での研修教材コンテンツの使用については、日本ファシリテーション協会の許可を受けています。無償でご利用いただけます。

営利目的の研修等で使用される場合は、別に許諾受ける必要があります。

